

事業年度 毎年3月1日から翌年2月末日まで
 定時株主総会 毎年5月
 基準日 定時株主総会の基準日は毎年2月末日と
 します。

期末配当の基準日は毎年2月末日、また
 中間配当を行う場合の基準日は毎年8月
 31日とします。
 その他必要がある場合は、あらかじめ公
 告いたします。

公告方法 電子公告の方法により行います。
 但し、事故その他やむを得ない事由によ
 って電子公告をすることができない場合
 は、日本経済新聞に掲載して行います。

電子公告アドレス
 (http://www.tobustore.co.jp/ir/index.html)

株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
 中央三井信託銀行株式会社
 郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目
 8番4号

(電話照会先) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部
 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
 取次事務は中央三井信託銀行株式会社の
 全国各支店並びに日本証券代行株式会
 社の本店及び全国各支店で行ってあり
 ます。

株式に関する
 お手続きについて

- 住所変更、単元未満株式の買取・買増請求、
 配当金受領方法の指定等は株主様の口座の
 ある証券会社にお申出下さい。
 証券会社に口座がないため特別口座が開
 設されました株主様は、特別口座管理
 機関である中央三井信託銀行株式会
 社にお申出下さい。
- 特別口座の株式については、特別口座の
 ままでは売買できません。売買を行う
 場合は証券会社の口座への振替が必要
 になります。
 手続きの詳細は左記記載の電話照会
 先にご確認下さい。
- 未払配当金の支払については、株主名
 簿管理人である中央三井信託銀行株式
 会社にお申出下さい。

株主ご優待

1. 優待基準 (株主ご優待券又は図書カードを送付
 いたします。)

株数	ご優待品		図書カード	
	株主ご優待券(券面額100円の割引券) 年間贈呈額	1回当たり 贈呈額	年間 贈呈額	1回当たり 贈呈額
1,000株 ~1,999株	160枚	80枚	2,000円分	1,000円分
2,000株 ~2,999株	320枚	160枚	4,000円分	2,000円分
3,000株 ~3,999株	480枚	240枚	6,000円分	3,000円分
4,000株 ~4,999株	640枚	320枚	8,000円分	4,000円分
5,000株以上	800枚	400枚	10,000円分	5,000円分

※受領された株主ご優待券又は図書カードは、未使用のまま全て返送する
 ことにより、上記優待基準に応じて交換いたします。

2. 株主ご優待券のご使用方法

当社直営売場の商品(当社のレジにて精算する商品)お買
 物時、現金、商品券及びクレジットカードによる1回のお
 買い上げ金額(1枚のレシートの消費税込み金額)1,000
 円以上につき1,000円毎に各1枚ご使用できます。
 (当社商品券、ギフト券、たばこ及び当社指定の商品を除
 きます。また、当社店舗内の専門店ではご使用になれませ
 ん。)



株主の皆様へ

第66期中間報告書 (第2四半期)

平成23年3月1日 ▶ 平成23年8月31日



本報告書は、次の方法により記載しております。

- 百万円単位の記載金額は百万円未満切り捨てて表示しております。
- 千株単位の記載株式数は千株未満切り捨てて表示しております。



代表取締役社長 宮内 正敬

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。さて、当社グループは平成23年8月31日をもって、第66期（平成23年3月1日から平成24年2月29日まで）の第2四半期（中

間期）を終了いたしましたので、その概況をご報告申し上げます。

当社グループは「総力戦で競合店に打ち勝ち予算を達成させる」を方針として、方針実現の為に①全従業員が「ファイティングスピリット」で利益を稼ぎ、「魂を入れた接客」の徹底、②「良質スーパー」の実現に取り組みました。

「良質スーパー」とは、「商品力の良質化」、「サービス面の良質化」、「価格面の良質化」などをバランスよくお客様に提供することでお客様から支持され、実現されるものであります。

更に、「店舗毎の戦い」を積極的に実践する為に店舗に主体性をもってもらう、店舗発信の予算の策定並びに店舗からの提案を基に本社と協議し内容を決定する改装を行いました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高は新店の寄与により425億64百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は粗利益率の大幅な改善により売上総利益が増加したこと、また光熱水道費等の経費の削減により11億51百万円（前年同期比217.3%増）、経常利益は12億64百万円（前年同期比161.9%増）となりました。また、当期より資産除去債務に関する会計基準が適用されたこと、及び東日本大震災による損失等により特別損失として1億54百万円計上しましたが、四半期純利益は6億32百万円（前年同期比249.8%増）となりました。

詳細につきましては、次ページ以降の事業別営業概況にてご報告させていただきます。

株主の皆様には、今後ともなお一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



〔店舗発信のみずほ台店改装 平成23年6月オープン〕

1. 事業別営業概況

(1) 小売業 売上高409億17百万円（前年同期比4.8%増）
〔株式会社東武ストア〕

① 新店の開設

平成23年3月に逆井店（千葉県柏市）及び西池袋店（東京都豊島区）、同年4月に練馬豊玉店（東京都練馬区）を開設し、当社の店舗は平成23年8月31日現在で合計60店舗となりました。

② 既存店の改装

「店舗毎の戦い」を実践する為に、店舗の陣容、強み弱み、設備、競合状況などについて最も詳細に把握している店長が、自ら企画立案した店舗発信の改装をみずほ台店、白井店及び北大宮店などで行いました。

③ 営業利益改善策

店舗毎の営業利益の改善を目的に毎月1回営業幹部会議を開催し、営業利益が厳しい店舗を取り上げて具体的な改善策を議論して、きめ細かな指示をするとともに、本社が徹底的に店舗支援を行い営業利益の改善を図りました。

④ 売上、粗利益向上策

・前期より継続して取り組んでいる鮮度管理や販売方法の一部見直しが店舗に定着し、値引きロスや販売チャンスロスを削減するとともに、低価格帯商品を縮小し、鮮度が良く安心・安全な良質化商品の拡大を図りました。

・作業の効率化、販売チャンスロス削減による売上、粗利益の向上を目的に衣料品部門に自動発注システムの導入を開始し、平成23年8月31日現在27店舗で導入を完了いたしました。



〔ホスピタリティ研修（接客徹底研修）〕

⑤ 顧客満足度アップのための施策

- ・外部の専門家による「ホスピタリティ研修」（接客徹底研修）を店舗の最前線でお客様に接するレジ担当者を主な対象として行い、「魂を入れた接客」に徹底して取り組みました。
- ・外部の専門機関による店舗オペレーションの定期的な遂行度調査を行い、遂行度の低い店舗及び低い項目の改善に取り組み、お客様満足度アップに努めました。

その他、新店及び改装店舗のスポット照明並びに本社の照明を全て、省エネ効果の高いLED照明に変更するなど、節電、環境に対する取り組みを積極的に推進いたしました。



〔株式会社東武フーズ〕

同社は、当社店舗を中心にファストフード店、インスタベーカー等運営し、ローコストオペレーションによる効率化を追求して、安定した利益を確保できる企業体質の強化に継続して取り組みました。

(2) その他 売上高16億46百万円（前年同期比7.5%増）
 その他といたしましては、子会社の株式会社東武警備サポートが警備業、メンテナンス業、人材派遣業を行っております。また当社物流センターにおける配送料収入等があります。

株式会社東武警備サポートでは、「営業体制の強化による外部取引の拡大」、「教育体制の強化による資質の向上」、「管理体制の強化による増員計画の実現」の三大方針の達成に向け業務に取り組みました。

当第2四半期における売上高の部門別内訳は次のとおりであります。

部門	売上高	構成比	前年同期比
小売業	百万円	%	%
加工食品	17,088	40.1	9.6
生鮮食品	15,474	36.4	6.2
(食品計)	(32,563)	(76.5)	(7.9)
衣料品	1,617	3.8	2.0
生活用品	1,451	3.4	4.6
商事	91	0.2	△59.9
専門店	5,192	12.2	△8.6
小計	40,917	96.1	4.8
その他			
警備業等	1,646	3.9	7.5
合計	42,564	100.0	4.9

2. 通期の見通し

連結業績見込

売上高	862億円（前期比 6.2%増）
営業利益	18億円（前期比115.8%増）
経常利益	19億円（前期比 78.1%増）
当期純利益	12億円（前期比 56.5%増）

当社グループにおきましては、上期と同様、①「良質スーパー」に向けて、全社員の意識を高める。②予算達成のための「ファイティングスピリット」の持続と「魂を入れた接客」を継続して行います。具体的施策といたしましては、

- ①店舗への改装投資、修繕等を積極的に行い、既存店の底上げを図る
- ②マネージャー教育の一層の充実
- ③女性社員の積極的登用
- ④本社と店舗間のコミュニケーションの深耕

以上の具体的施策を着実に実行し、全社一丸となって更なる業績の向上に努めてまいります。

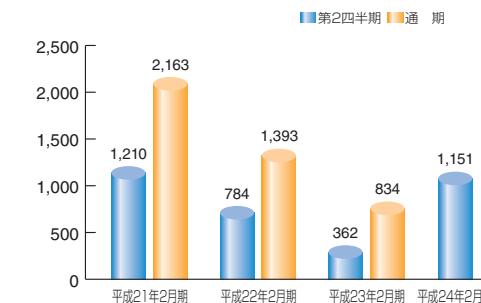


〔店舗発信の高島平店改装 平成23年9月オープン〕

■売上高（単位：百万円）



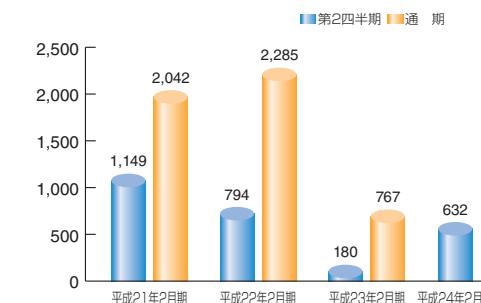
■営業利益（単位：百万円）



■経常利益（単位：百万円）



■四半期（当期）純利益（単位：百万円）



（単位：百万円）

区分	平成21年2月期		平成22年2月期		平成23年2月期		平成24年2月期
	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期	通期	第2四半期
売上高	41,605	82,456	41,447	81,524	40,579	81,163	42,564
営業利益	1,210	2,163	784	1,393	362	834	1,151
経常利益	1,321	2,388	908	1,617	482	1,067	1,264
四半期(当期)純利益	1,149	2,042	794	2,285	180	767	632

■四半期連結貸借対照表（要旨）

科 目	当第2四半期末 <small>(平成23年8月31日現在)</small>	前第2四半期末 <small>(平成22年8月31日現在)</small>	前期末 <small>(平成23年2月28日現在)</small>
	百万円	百万円	百万円
(資産の部)			
流動資産	9,481	8,933	8,820
固定資産	25,461	23,528	23,690
有形固定資産	16,109	14,463	14,484
無形固定資産	177	196	156
投資その他の資産	9,174	8,867	9,049
資産合計	34,943	32,461	32,510
(負債の部)			
流動負債	6,578	6,073	5,692
固定負債	5,622	4,295	4,300
負債合計	12,201	10,369	9,992
(純資産の部)			
株主資本	26,199	25,549	25,915
資本金	9,022	9,022	9,022
資本剰余金	7,847	8,061	7,847
利益剰余金	9,398	8,533	9,113
自己株式	△ 68	△ 68	△ 67
評価・換算差額等	△ 3,457	△ 3,457	△ 3,398
その他有価証券評価差額金	△ 13	△ 5	46
土地再評価差額金	△ 3,444	△ 3,451	△ 3,444
純資産合計	22,741	22,092	22,517
負債及び純資産合計	34,943	32,461	32,510

ポイント①

ポイント②

ポイント③

ポイント①

当第2四半期末の資産合計は、前期末に比べ24億32百万円増加し、349億43百万円となりました。新店3店舗の開設及び店舗改装等により有形固定資産が16億24百万円、投資その他の資産が1億25百万円増加し、また、預け金等の増加により流動資産が6億61百万円増加したこと等が要因です。

ポイント②

当第2四半期末の負債合計は、前期末に比べ22億8百万円増加し、122億1百万円となりました。新たに資産除去債務3億3百万円を計上した他、新店開設に伴いリース債務が10億61百万円増加しました。また、買掛金が5億23百万円増加したこと等が要因です。

ポイント③

当第2四半期末の純資産合計は、前期末に比べ2億24百万円増加し、227億41百万円となりました。四半期純利益6億32百万円による増加と、剰余金の配当3億47百万円の支出、株価の下落により、その他有価証券評価差額金が59百万円減少したこと等が要因です。

■四半期連結損益計算書（要旨）

科 目	当第2四半期 <small>(平成23年3月1日から平成23年8月31日まで)</small>	前第2四半期 <small>(平成22年3月1日から平成22年8月31日まで)</small>	前 期 <small>(平成22年3月1日から平成22年2月28日まで)</small>
	百万円	百万円	百万円
売上高	42,564	40,579	81,163
売上原価	30,278	29,953	58,541
売上総利益	12,285	10,626	22,622
販売費及び一般管理費	11,134	10,263	21,787
営業利益	1,151	362	834
営業外収益	163	149	302
営業外費用	49	29	69
経常利益	1,264	482	1,067
特別利益	—	—	5
特別損失	154	107	209
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,110	375	863
法人税、住民税及び事業税	478	79	116
法人税等還付税額	△ 112	—	—
法人税等調整額	112	114	△ 20
四半期(当期)純利益	632	180	767

ポイント④

ポイント④

売上高は東武ストアの新店の寄与により前年同期比4.9%増加しました。また、粗利益率の大幅改善により、売上総利益が16億59百万円増加しました。販売費及び一般管理費は新店開設に伴う経費増はあったものの、光熱水道費、広告宣伝費を中心に経費削減に努めた結果、営業利益は前年同期比217.3%増、経常利益は同161.9%増と大幅増益となりました。資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額、東日本大震災による損失等、特別損失1億54百万円を計上しましたが、四半期純利益は前年同期比249.8%増となりました。

ポイント⑤

当第2四半期末における現金及び現金同等物残高は、前期末に比べ10億6百万円増加し、55億69百万円となりました。(営業活動によるキャッシュ・フロー) 営業活動の結果得られた資金は29億68百万円となり、前年同期に比べ14億86百万円収入が増加しました。税金等調整前四半期純利益が前年同期比7億35百万円増加したこと等によるものです。(投資活動によるキャッシュ・フロー) 投資活動の結果使用した資金は14億97百万円となり、前年同期に比べ4億23百万円支出が減少しました。新店開設及び改装に伴う有形固定資産の取得に係る支出が前年同期より4億97百万円増加したこと等によるものです。(財務活動によるキャッシュ・フロー) 財務活動の結果使用した資金は4億65百万円となり、前年同期に比べ3億81百万円支出が減少しました。配当金の支払額が前年同期より3億54百万円減少したこと等によるものです。

ポイント⑤

■四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

科 目	当第2四半期 <small>(平成23年3月1日から平成23年8月31日まで)</small>	前第2四半期 <small>(平成22年3月1日から平成22年8月31日まで)</small>	前 期 <small>(平成22年3月1日から平成22年2月28日まで)</small>
	百万円	百万円	百万円
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,968	1,482	2,415
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,497	△ 1,920	△ 3,044
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 465	△ 847	△ 1,245
現金及び現金同等物の増減額	1,005	△ 1,285	△ 1,874
現金及び現金同等物の期首残高	4,563	6,438	6,438
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	5,569	5,152	4,563

逆井店 平成23年3月3日（木）オープン（千葉県柏市）



千葉県八街の産直野菜と
地産地消の米菓コーナー



西池袋店 平成23年3月26日（土）オープン（東京都豊島区）



東武ストアが自信
をもってお勧めす
る安心・安全で
お客様に大好評な
「出雲あじわい牛」

練馬豊玉店 平成23年4月28日（木）オープン（東京都練馬区）



※店舗外観は表紙面に掲載



店内手作り美味しい惣菜コーナーと
健康にこだわった
ナチュラルチーズコーナー

「東日本大震災」の被災者への支援活動



旧埼玉県立騎西高校に避難された福島県双葉町の皆様へ、平成23年4月食料品を届けさせていただきました。

- 当社からの義援金支援
10,000,000円
(息の長い支援を目的に毎年200万円、5年間継続)
- 当社及びグループ会社従業員からの義援金支援
1,200,000円
- 支援物資のお届け
- 義援金店頭募金
15,778,976円

